

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 26 年後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	井上 毅	会員番号	0032929
申請者の所属・職名	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 分化制御研究室 特任助教		
出席会議名	Keystone Symposia: The Golden Anniversary of B cell Discovery		
発表論文タイトル	Regulation of early B cell development by the CCR4-NOT mRNA deadenylase complex		

実施結果:

この度はTadamitsu Kishimoto International Travel Awardに採択頂き誠にありがとうございました。私は2015年3月22日～27日にカナダのBanffで開催されたKeystone Symposia (The Golden Anniversary of B cell Discovery)に参加し、B細胞初期分化におけるmRNA分解酵素複合体の役割について研究成果の報告を行って参りました。

今年のB cell Keystone SymposiaはMax CooperとRobert GoodによるB細胞の発見 (Nature, 1965)から50周年を記念した会として開催され、Max Cooperご自身による基調講演から始まり、各セッションの始めにはそれぞれの研究分野の発展の歴史的経緯を振り返るような発表がなされ、大変貴重な経験ができました。シンポジウム全体の内容としてはB細胞の分化、成熟、活性化、及び臨床応用とB細胞研究全般を網羅する形にはなっていますが、中でも特にここ数年発展が目覚ましいB細胞活性化におけるT-B相互作用についての講演では各発表ごとに非常に白熱した議論が展開されました。また、1細胞における遺伝子発現や抗体レパトア解析など、解析技術の進歩と研究分野の進歩はカップルすることを強く印象付けられ、最先端の研究に頻繁に接し、新しい系や技術を一早く取り入れることの重要性を再認識させられました。また、今回はKeystone Symposia (HIV Vaccines)との共催だった影響もあってか、あるいは昨今のB細胞研究の潮流なのかもしれませんが、ヒトB細胞疾患やHIV、インフルエンザウイルスワクチン開発といった応用的分野に関する講演が非常に多くなっており、相対的に初期分化などの基礎的分野の研究発表が少ない印象を受けました。しかしながらその中でもmiRNAなど、B細胞機能発現におけるmRNA制御の重要性に注目している研究者らと直接密なディスカッションをすることができ、多くの情報を収集できたことは大変有意義でした。

最後に、このような機会を与えていただいた岸本忠三先生、選考委員の先生方、またご推薦いただいた黒崎知博先生に厚く御礼申し上げます。